

平成27年度 学校自己評価システムシート(大川学園高等専修学校)

目指す学校像	校訓「自律 協調 奉仕」のもと、一人一人の生徒を大切に、社会に貢献する人材を育てる学校
重点目標	「チーム大川」として日々の教育活動に全力を尽くし、生徒・保護者・地域等からの信頼を得る ①どの生徒にも学ぶ喜びを実感させ、学力を着実につける ②深い生徒理解に基づく生徒指導を徹底し、進路実現をはかるとともに人格の完成を目指す ③地域等と連携し、開かれた学校づくりを進めるとともに安定した生徒募集を実現する

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※ 学校関係者評価実施日とは、最終回の学校関係者評価委員会会議を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日と

出席者	学校関係者	5名
	事務局(教職員)	6名

学校自己評価				学校関係者評価		
年度目標		年度評価		実施日 平成28年2月23日		
番号	現状と課題	P(具体的方策)及びD(実行)	C(評価)	達成度	A(次年度への課題と改善策)	
1	<p>○本校生徒の多くは基礎学力定着のため、中学校以前の学習から振り返る必要がある。授業は45分間で設定され、生徒の実態に即しており、各教科担当者が、生徒の理解度に合わせて行っている。受動的な学習になりやすいところであるが、教員は考えながら創意工夫している。一斉授業についていけない生徒のために、個々への対応や、毎週の基礎講座等の実施を行っている。また、本校の中で比較的成绩が上位の生徒に大学進学等も含めて、高度な教育機会を与えていく必要がある。</p> <p>◎これらの現状を踏まえ、生徒が受身だけの授業にならないように工夫していく必要がある。学習に決して前向きではない生徒に対し、興味関心を持たせ、基礎学力の定着と共に学ぶ喜びを持たせることが課題である。引き続き基礎講座等の基礎学力定着の学習機会を設定していく必要がある。本校の福祉科の生徒については、福祉の知識の習得だけでなく現場の学習をさらに充実させていく必要がある。</p>	<p>①45分の授業時間を有効に使うためのシラバス作成を検討する。 ②生徒の基礎学力を的確に把握するため、毎学期1回の実力テストを実施する。 ③実力テストの結果を受けて、毎週月曜日に基礎講座を実施する。 ④文書能力検定等の資格にチャレンジさせる。ビジネス文書実務検定合格者50人以上を目指す。 ⑤ICT機器を導入するなどのアクティブラーニングを検討する。そのために全教員の研修を実施する。 ⑥全生徒への授業アンケートを実施し、授業満足度80%以上を達成する。 ⑦福祉科の施設実習を充実させるために、週1回の現場実習を実施する。 ⑧福祉の各種検定を実施し、福祉住環境コーディネーター試験、社会福祉・介護福祉検定試験の70%以上の合格を目指す。</p>	<p>①シラバスについての研修を行ない、来年度全ての教科で作成することを確認した。 ②③毎学期最初に英語・数学・国語の実力テストを行い、成績上位者を公表し、一層の努力を促すとともに、基本が身につけていない生徒に対しては毎週月曜日放課後、基礎講座として年間を通して実施した。 ④ビジネス文書実務検定合格者は49名(2級2名、3級10名、4級37名)であった。また、社会人常識マナー検定2級1名、3級13名、電卓計算能力検定4名であった。 ⑤アクティブラーニングの導入に向けて、校内にALO委員会を立ち上げ、11回(1/27時点)開催した。ICT機器を使った授業の研修会を行うとともに、全教職員が研究授業を行った。 ⑥授業満足度は75.4%であり、改善の余地がある。 ⑦福祉科の現場実習を週に1回行った。欠席者が若干あった。 ⑧福祉住環境コーディネータ試験3級合格者3名、社会福祉・介護福祉検定4級1名、3級6名であり、47.6%の合格であり、また、介護職員初任者研修修了者21名と100%であった。</p>	B	<p>授業改善のためのICT機器の導入やアクティブラーニングの教職員研修会、全教員の研究授業を多く行うほか、他校を視察するなど授業改善に努めている。また、慶應義塾大学大学院SDM科との連携により、一層の生徒のスキルアップを目指すとともに、基礎学力の定着に向けて、新たな試みを組織として実践していく。</p>	<p>○重点項目の中で「チーム大川」を打ち出し、教職員が一丸となって指導に当たっている点が素晴らしい。また目標として具体的な数値が挙げられ非常にきめ細かく取り組んでいるのがよい。 ○受け身ではなく積極的に授業に参加している生徒が指導に対して高く評価している点から、先生方の授業に対する熱心さが伺える。 ○学校公開期間の保護者参加率が低いにも関わらず保護者の評価が高いのは、生徒からよい情報が家庭に伝わっていると考えられる。 ○以前の教育環境に比べるとかなり改善が見られる。 ○生徒のB評価をAに変えていく努力が必要である。また、満足度の数値目標を80%でなく年度経過で数%ずつ増やし、最終的には100%を目指せるとよい。 ○教員のスキルアップは大事であり、定期的に職員研修を行っているのはよいことである。 ○慶應義塾大学大学院SDM研究科との連携は大変よいと思う。 ○アクティブラーニングやICTの導入など、授業改善に引き続き取り組んでほしい。</p>
2	<p>○年間を通して生徒指導は徹底して行われている。登下校の指導は、生徒の服装・頭髪を指導するだけでなく、体調や心理状態も把握でき、問題行動や不登校等を未然に防止している。また、チャイム着席や整然とした授業は、学業や卒業に対する意識を高め、中途退学者を減少させている。数年前と比較して問題行動も減少し、安心安全な学校が定着してきている。教員による休み時間や授業中の巡回は年間を通して行われている。生徒が教員に対して相談を行いやすいような教育環境が整ってきている。時間厳守・話を聞く・指導を素直に受け入れる、という本校の生徒指導の基盤があらゆる教育機会実践されている。進路指導は、進路決定率にとられるだけでなく、生徒に本当に合った進路であるかという進路適性率を高める必要がある。</p> <p>◎今後も引き続き粘り強く生徒指導を徹底していく必要がある。問題行動を起さない、また、起さないような環境を作り出す積極的な生徒指導が必要である。本校には教育相談を必要とする生徒が多く、相談しやすい環境整備が必要である。進路指導においては、計画的に進めると共に、高卒求人の新規開拓も必要である。</p>	<p>①登下校指導、服装・頭髪指導、遅刻指導を毎日実施し、頭髪服装での指導件数ゼロ、年間延べ遅刻者数400人以下、交通事故件数ゼロを目指す。 ②チャイム着席、挨拶の励行を随時指導すると共に、休み時間や授業中の教員の校舎内巡回を実施する。チャイム着席100%を実現する。 ③問題行動を未然に防ぐため、担任指導・学年集会を有効に実施し、問題行動50%減、退学者30%減を目指す。 ④安全な教育環境の整備のため、毎日の日常点検と、学期1回ごとの設備定期点検を行う。 ⑤教育相談の充実、学校カウンセラー等との連携を密にして、情報を共有する。 ⑥3年間を見通した計画的な進路指導の実践、分野別学校説明会を実施し、進路決定率90%以上、進路満足度90%以上、3年離職率30%以下を目指す。 ⑦継続的採用と新規採用企業開拓のための企業訪問を積極的に行い、求人数20%増を目指す。</p>	<p>①登下校指導、服装・頭髪指導を毎日実施した。年間の延べ遅刻者数も400人以下を達成した。交通事故件数もなかった。服装・頭髪については、今後も引き続き粘り強い指導が必要である。 ②チャイム着席は80%以上達成している。100%を目指すとともに、数年来実施している校内巡回を行っていききたい。 ③問題行動を未然に防ぐ積極的な生徒指導が有効であり、問題行動は17件、昨年度に比べ10.5%減であった。退学者は1名であった。 ④安全な教育環境の整備のため、毎日による施設の点検を毎日行い、学期に1回は設備定期点検を行った。 ⑤週に2回カウンセラーに来院してもらい、予約でも当日でも安心して相談できる環境の整備を行っている。 ⑥進路決定率は93.2%(2/22時点)となった。しかし、進路指導に対しては満足度が82.2%であり、改善の余地がある。 ⑦企業訪問を行い、求人数は16.7%増であった。</p>	B	<p>教職員の努力により、日常の登下校指導や授業中、休み時間中の巡回が行われている。問題行動はあるものの、生徒指導の件数を0に近づけていきたい。退学者は少なかったが、転学・転籍の生徒はおり、中学生に本校を理解してもらい、理想と現実がかけ離れたものにならないようにする必要があり。授業規律の継続はもちろん、さらに服装等身だしなみにも踏み込んだ指導をしていく。また、進路指導において景気や経済界の動向とは関係なく、福祉以外の企業も含め新規開拓を進めていく努力を怠ってはいけいない。</p>	<p>○生徒指導は一番負担感があり、かつ一番大切なことである。一丸となってやっているところがすばらしく、チーム大川ということにつながる。 ○3点に絞って取り組む一焦点化したこともよい。 ○組織としてしっかり取り組んでいると思う。 ○大川学園高校は昔よりずっとよくなってきている。その反面、先生方の負担が公立と比べて大き過ぎるように感じる。効率よく、負担を減らした方がよいと思う。 ○少ない人数でまめに指導している。生徒一人一人を見つめて、個に合った指導をしている。声かけなどもすばらしい。 ○スカート丈は昔は極端に短い子もいた。今の世の中では標準的だが、指導を根気強くやる必要がある。保護者を呼んで話すなど、上手くやっている。 ○進路指導について、日ごろからのボランティア活動があるから地元への就職が増えるのではないかと。企業が誘致されていており、ありがたいと思う。今後も地域貢献を大切に行ってほしい。</p>
3	<p>○地域に根ざした学校づくりは本校の大切な方向性である。地域活動においては、ボランティア部が中心となり、市内のイベント参加や高齢者宅の訪問、震災復興元氣市への参加など積極的に行っている。また、私立の高等学校として、生徒募集は最も重要な学校業務でもある。本校への希望者は年々増加傾向にあるが、定員を毎年100%満たしていない。開かれた学校づくりとして、授業公開を実施している。</p> <p>◎今後も地域に根ざした学校としての役割を果たしていく必要がある。具体的には、夏と秋の飯能まつりへの積極的なボランティア参加を行う。高齢者宅への訪問や慰霊祭への参加も引き続き行っていく。中学校訪問は今後も継続して行っていくと同時に、強い信頼関係を築いていく必要がある。HPは有効な広報手段であり、毎日の更新や情報の掲載は必須である。</p>	<p>①日常的な授業公開を行うと共に、2週間の学校公開期間を年間に2回設定して、開かれた学校づくりを行っていく。 ②市内8校の中学校と市外中学校への出前授業の実施及び上級学校訪問の積極的受け入れを実施する。上級学校訪問受け入れ50%増、市外への出前授業20%増を目指す。 ③飯能市の夏・秋まつりへの積極的なボランティア参加を継続的に実施し、参加する生徒人数20人以上を目指す。 ④市内高齢者宅へのボランティア訪問を実施し、参加生徒数10人以上を目指す。 ⑤震災復興元氣市へ継続的に参加し、参加生徒数20人以上を目指す。 ⑥中学校訪問等による積極的な生徒募集活動を行い、福祉科40名、普通科40名の定員を確保する。 ⑦情報の積極的発信のため、HPを毎日更新する。 ⑧生徒募集を組織的に行う委員会を新たに設置する。</p>	<p>①日常的に学校公開を行っている。2週間の授業公開期間は年間に1回しか実行できなかった。さらに開かれた学校づくりを目指す。 ②市内8校の中学校への出前授業を積極的に行うことができ、今後も継続していききたい。市外への出前授業は2校であり、例年と同じであった。上級学校訪問の受け入れは市内外を通じて3校あった。例年と同じ位であった。 ③飯能市の夏・秋まつりへのボランティア参加は積極的に行われた。参加生徒数は、夏が20名、秋が30名であった。 ④市内高齢者宅へのボランティア訪問を実施した。参加生徒は7人であった。 ⑤3月5、6日開催の震災復興元氣市に向け、生徒の参加を促す。 ⑥定員確保に向け努力中である。 ⑦HPを毎日更新し、更新回数は2/18時点で、256回(昨年度22回)であった。学校説明会で、司会や校内案内を生徒が行なった。 ⑧生徒募集委員会を新たに設置した。</p>	B	<p>ボランティア活動や市内外の行事に対しての生徒の参加者数は少なくないが、もっと増やしていくべきである。引き続き、夏・冬の飯能まつりへの参加、震災復興元氣市への参加、高齢者宅への訪問など地域に貢献していく必要がある。生徒募集は、学校にとって大切な分野であり、今年度の取組をしっかりと総括し、定員確保に向けてさらに努力していかなければならない。</p>	<p>○痴漢撲滅キャンペーンは、学校から何か貢献できることがないかと警察署に投げかけた結果実現したとのことであり、ソーデーマーチや募金活動等を含め、攻めの姿勢で地域に出向いている姿勢が評価できる。 ○生徒募集について全体的にはよくやっているが、定員確保が課題である。高校3年生を使って母校にアピールするのほひとつの方法である。 ○大川学園高校を選んで入学する地元の生徒が年々増えている印象がある。引き続き出前授業や上級学校訪問に力を入れてほしい。 ○生徒募集委員会を立ち上げたこと、及びHPを毎日更新したことはよい。 ○何を魅力にしているか今までよくわからなかったが、写真の資料でわかった。先生方の努力も報われたと思う。今後、このような資料を積極的にPRするとよい。 ○今回、大川学園高校の姿が大変よくわかり、非常によかった。</p>